

特集：全国各ブロックの活動について

昨年から続くコロナ禍で本連盟の活動も縮小、中止を余儀なくされています。常任理事会も回数を減らしながらも、万全の措置を講じて会議を開いています。そのような中、去年は全国各都道府県連盟には加盟費について、多大なるご協力をいただきました。心より感謝申し上げます。



さて、会員各位においてはそれぞれに工夫しながら活動をされていることでしょうか。個々の活動はもとより大切ですが、県境を越えての活動はより制約が強くなるので全国9ブロックではその活動に苦慮されていることは想像に難くありません。ここで互いの状況を知り、今後の活動についての工夫の一助になればと思います。

北海道ブロック

コロナ禍での練習について

北海道札幌西陵高等学校 後藤貴宏

本校では、緊急事態宣言が発出されたことを受け北海道教育委員会の通達に従って、バドミントン部の活動を続けています。北海道札幌市では6月10日現在、緊急事態宣言が発出されている中、公共の体育施設が全国大会へつながる大会以外、練習など日常の活動全てができなくなっています。また、6月20日の緊急事態宣言の終了まで高体連の地区大会（インターハイ地区予選）・全道大会へ向けた練習のみ、出場メンバー限定で練習することができるとされています。つまり、予選で敗退した時点で次の大会がなければ実質練習ができない状況です。完全下校が16：00で分散登校をしている状況なので、14：30～15：50までが練習時間となっています。



中学・高校は、全中・インターハイへ向け学校で練習できる状況なのですが、ジュニアチームのバドミントンは全く体育館で活動できない状況です。区の体育館、道立の施設、学校開放事業すべてストップしています。全国小学生ABC大会の全道予選が6月26日・27日にせまる中、おそらく札幌市は20日まで体育館が使えない状況だと思います。実際、練習をしているのは中学校・高校の試合がある生徒のみです。一般社会人、大学生も活動できていません。高校の部活動も短時間で外部の人間が一切参加できない状況なので



小学生はとてもかわいそうな感じで過ごしています。

感染症対策も強化しており、本校では熱中症の問題もあるのですが原則コート内でのプレー中もマスク着用が義務づけられています。そのような限られた条件の中ではありますが、子供たちは一生懸命シャトルを追いながら活動しています。6月20日で緊急事態宣言が解除になり、現在の状況より良くなることを期待しながら報告を終わりたいと思います。

〔北海道ブロック代表理事 金子 光〕

東北ブロック

東北ブロックからの報告

東北ブロック代表理事 橋本遊二（福島県）

●教職員ブロック大会に向けての東北の実情

指導者の技術の向上と指導法の研修を目的としてブロック大会を実施することは、大いに有意義であると考えます。

学生時代に選手を経験している方々ばかりで無く、たまたま赴任した学校で顧問としてバドミントンに関わざるを得なくなった方々にとっても、自らラケットを握りコートに立ち、バドミントンの素晴らしさを体験すれば“勝っても負けても”それぞれの指導の場に生かされる事は言うまでもありません。

そしてその場で出会った仲間との交流は貴重な財産ともなります。ただ、これまで東北ブロック大会はエリアが広く一同に会することが容易でなかった為、実施されませんでした。今後、コロナの終息の折には、何とか知恵を出し合い、実施したいと考えています。

●福島県での全日本教職員大会の開催

1981年に福島県で初めて全日本教職員大会を郡山市で開催。当時日本教職員連盟の理事だった布引修二氏(元福島県協会会長)の積極的な誘致によるものだったと思います。私もこの大会の準備・運営に関わりながら大会にも出場させて頂きました。全国から参加している方々のバドミントンに対する前向きな姿勢には心を打たれ深く感銘いたしました。

私にとって宮崎国体の教員の部への出場と教職員大会での経験は指導者として永年バドミントンを続けてこれた大きなエネルギーとなっています。

ある意味「アリ地獄」の入り口だったのかもしれませんが。「あれから35年!!」「あれから36年!!」2017年に郡山市で再び全日本教職員大会を開催。

この大会には本県から51名が参加し、地元開催を大いに盛り上げました。

福島県はこれまで団体種目（一般・成壮年）で9回優勝しております。今年は隣県である新潟での開催であり、区切りの10回目の優勝を目指し多くの選手で参加したいと考えています。

関東ブロックの活動について

関東ブロック代表理事 高崎道治（埼玉県）

関東ブロックでは、平成24年より関東教職員大会を行ってきました。昨年度の第9回大会は中止になってしまいましたが、今年度は7月に神奈川県で開催する予定です。種目は一般と10歳刻みの年齢別ダブルスで行ってきましたが、今年より一部をペアの合計年齢で行う種目に変更しました。条件を緩和してペアを組みやすくし、参加数が増えることを期待しています。また、混合ダブルスの新設も検討事項になっています。

私の所属する埼玉県は東京都に隣接していますので、コロナ禍の影響を大きく受けています。そのため、昨年度秋に予定していた埼玉県教職員大会も何とか開催できないか可能性を探っていましたが、結局開催できませんでした。

また顧問をしている高校では活動できた期間が2度の緊急事態宣言によって短く、特に1年生は6月からの入部で、技術レベルの低下が顕著です。昨年度は3年生最後のインハイ予選は中止になり、何とか秋の新人大会は開催しましたが、感染対策の入場制限のため審判要員は入場できず地区大会は対角の2線審のみで行いました。また、冬の地区の団体戦と1年生大会は中止になりました。実際に部員に陽性者が出たり、他の運動部で感染が広まったりして参加を辞退したチームもありました。結局、今年の3月になって活動制限が緩和されましたが、練習時間の不足と対外試合禁止による経験不足は顕著で、春の大会前でもイージーミスが多く、まるで秋の新人大会前のようなようでした。

私は個人的に小学生（出羽バドミントンジュニアクラブ）を教えています。練習施設の閉鎖や時間制限など、普段の活動も制限されました。通常3つできる練習が2つしかできなかつたり、反復回数を減らしたりしました。そのため、例年より初心者の子供たちの上達が遅くなりました。また、大きな体育館が閉鎖されたため大会も大半が中止になり、特に6年生は残念だったと思います。

このように練習量が減ったこと、大会がなくなることによりモチベーションが下がったこと（教職員もですが）で、全体的にレベルの低下が危惧されます。1日も早く通常の活動ができることを願っています。



第1回関東教職員バドミントン選手権大会

北信越ブロック

北信越ブロックの活動について

北信越ブロック代表理事 福嶋康夫（新潟県）

北信越ブロックでの交流活動については、現在まで開催できていませんが、各県代表との連絡は取っており、現在の状況下ではオンラインによる交流が中心になると考えております。一昨年度末に交流会の開催を準備しておりましたが、コロナ禍の影響で県外への移動制限がありできませんでした。昨年度も日程等の調整がうまくいかず実現には至っておりません。

昨年度の県内活動はほぼ中止とし、高校初心者バドミントン大会のみ公共施設を借りて行いました。この大会は、毎年開催し27回目となり、会員の高校の生徒が参加できる大会でコロナ禍の中でもなんとか開催してほしいとの要望を受け実現できました。感染防止対策には万全を期して行いました。結果、関係者には喜んでいただけました。

今年度の活動は、一昨年と同様な予定で行っていきたいと考えておりますが、コロナ禍の影響でどこまで行えるかが心配です。また、第60回全日本教職員バドミントン選手権大会が新潟県で開催できることは大変うれしいことです。感染防止対策に万全を期して皆様をお迎えする準備を進めております。

なお、この全国大会を開催するにあたって近年開催県の支出が増え赤字決算となっています。しばらくの間はコロナ対策費の支出もありますので、参加費の増額、補助金の増額など検討していただきたいと思っております。

東海ブロック

東海ブロックの活動状況について（報告）

東海ブロック代表理事 原 賢一（愛知県）

平成30年度に愛知県にて第57回全日本教職員選手権大会開催を機に翌年令和元年6月2日（日）に「第1回東海地区教職員バドミントン選手権大会」を一宮市総合体育館いちい信金アリーナにて開催しました。開催にあたり他ブロックの実施状況、東海4県の全日本教職員参加状況を調査し、県対抗の団体戦5種目（一般男子・一般女子・成壮年男子・成壮年女子・ハイパーエイジ）を正規種目に設定し、各種目各県2チーム以内として3チーム以上の参加で成立とし募集をかけました。しかし他の大会と日程が重なり、成立したのは一般男子団体と成壮年男子団体の2種目のみで、両種目とも3チーム参加で総当たりリーグ戦を行いました。参加人数は38名。

競技戦績は、一般男子団体 ①岐阜（2勝0敗）、②愛知B（1勝1敗）、③愛知A（0勝2敗）、成壮年男子団体 ①愛知B（2勝0敗）、②愛知A（1勝1敗）、③岐阜（0勝2敗）です。

■反省点と今後の課題

1. 開催期日について：全日本教職員選手権の団体種目編成の変更と新設種目への対応（練習）とエントリー期限を踏まえて6月2日開催としたが、愛知は県総合と国体県予選、社会人リーグ、他県も県高校総体と全日本シニア県予選等との日程重複により、参加者数は大幅減の半数以下となりました。

⇒全日本教職員への参加を推進する目的で同時期の5～6月に開催するか、大会開催の少な

い時期で学校行事の繁忙期を避ける日程を探るか、他に都合の良い日があるのか再検討・調整が必要。

2. 実施種目について：今回、県対抗の団体戦を正式種目としたが、一般男子と一般女子は2複1単で選手5～7名、成壮年男子・成壮年女子とパイパーエイジ男子は選手6名～9名の人員が必要となるため、人数確保からチーム編成が難しかった。対応策として、同日同会場開催の「第12回愛知県教職員選手権大会（個人戦ダブルス）」にオープン参戦を取り入れて開催した。参加人数は32名。

⇒チームの団結と大会の盛り上がりから団体戦が適していると考え、全日本教職員大会参加への起爆剤となればと期待し団体戦で進めるか、単体で参加可能な個人戦に切替えるか、団体と個人戦の両方行うかは、他ブロック教職員大会の情報を収集のうえ議論が必要。

3. 開催場所について：準備段階において東海4県の各教職員連盟事務局にアンケートを実施した結果、県内での教職員大会を年3回開催の静岡、年1回開催の愛知、未開催2県と其々実態は異なり、大会への役員派遣等協力体制、日程調整と会場確保等、各県持ち回り開催は現状困難と回答を貰っている。

⇒交通の便、移動距離等を考慮し、本大会が定着するまで当面は愛知県で開催する予定。

■コロナ禍の影響

第2回大会（令和2年6月7日）、第3回大会（令和3年5月30日）と同会場を確保し準備を進めたが、いずれも緊急事態宣言発令中となり新型コロナウイルス感染拡散防止のため大会は中止としました。

実質未だ1回しか開催出来ていませんが試行錯誤を重ねて参加しやすい大会を目指します。不備な点が多々ありますが、良き方策、ご指導ご助言をいただければ幸いです。よろしく願い申し上げます。

愛知県教職員バドミントン連盟 原 賢一〈educatorsbad.f@gmail.com〉

近畿ブロック

近畿ブロックの活動について

近畿ブロック代表理事 中村康正（大阪府）

近畿ブロックでは、今年度は例年通り活動する予定です。6月末に各府県対抗の団体戦（※）、1月末に個人戦を予定しています。団体戦は男子の部（2複3単）と女子の部（1複2単）、各府県複数チームの出場を可として実施しています。個人戦は、男女単複とも一般、30歳以上、40歳以上、50歳以上、60歳以上の種目で実施しています。混合複は実施していません。

近畿ブロック内各府県の連盟活動として統一しているものはなく、会員対象の大会や講習会を開催している府県もあれば、会員数が少なく活動ができていない府県もあるのが現状です。

私たちが関わっている児童・生徒・学生の活動に関しては、主催団体の開催意向ではなく、練習会場や大会会場側の利用可否によって開催可否が決まっているのが現状です。そのため、開催可能な会場で出場者数を制限したりして、できる限り開催できるよう頭を悩ませています。練習は時間短縮で行っており、今までの活動以上に有意義となるよう工夫しています。休校などの場

合は、オンラインを活用して、各自で出来る練習メニューを伝達・確認したり、不安が解消するようにコミュニケーションをとったりしています。

大会開催などに賛否はあると思いますが、コロナ禍でも「安心して練習でき、安心して大会に出場できる」環境を作れないものかと試行錯誤しています。現在はトーナメントをブロックごとに時間を区切って入れ替え制で対応しています。「コロナ禍で有効な方法」はもちろん、このような「通常時でも有効な方法」を全国で共有することができたら、今後の活動に大きく役に立つのではないかと考えています。

※寄稿段階では開催予定でしたが、近畿ブロック内の緊急事態宣言再延長に伴い中止となりました。

中国ブロック

中国ブロックの活動について

中国ブロック代表理事 市川 佑（岡山県）

コロナ禍の中、様々な大会が中止、延期となっています。中国地区教職員連盟がこれまで開催してきて、令和2年12月に30回目の節目を迎える予定でした中国地区教職員バドミントン大会も残念ながら中止となってしまいました。

この大会は、中国5県がそれぞれ男女混合の団体チームを編成し、「一般の部」と「壮年の部」の2種目で行われる団体戦と、年齢別の単・複・混合複、合計23種目で争われる個人戦とで開催されています。近年は参加される先生方の人数が少なくなっていることが課題となっているので、先生方が参加しやすい日程を考えたり、団体戦の人数編成を少なくし、加えて壮年の部を新設したり、混合複の年齢区分を再編したりするなど、様々な改善を行ってきました。

昨年度は1年に1度、中国地区のバドミントンを愛好されている先生方とシャトルを交わしたり、（そして1年間のできごとをお話したり、お食事をしたり、更にはお酒を酌み交わしたり…などなど）楽しみにしていた時間が無くなり、とても寂しく感じています。

岡山県教職員連盟も1年に3回県内大会（春季個人、冬季個人、学校対抗戦）を主催しておりますが、令和2年2月の学校対抗戦から中止となってしまっています。今年度も6月に予定しておりました春季大会（個人戦）の開催に向けて開催種目を絞ったり、クラスごとに開催時間を分けたりするなど、3密を避ける工夫を考えながら準備を進めてまいりました。しかし、岡山県に緊急事態宣言が発出されてしまい、開催を断念しなくてはならなくなりました。

今後の見通しも立たず、地域によっては体育館の使用ができない時期も続いており、選手の皆さんにおかれましては練習もままならない状況にあります。またいつかいつも通りに練習ができるようになり、県内大会、中国大会、そして全国大会で皆さんとバドミントンができる日を楽しみにしています。

写真：6年前に岡山県で開催された中国大会での岡山県チーム・大会役員の皆さんとの集合写真です。令和2年度も岡山県チームの先生方と中国大会を盛り上げる予定でしたが…残念ながら叶いませんでした。またいつか、たくさんの笑顔がコートにあふれる日を心待ちにしています。



四国ブロック

四国ブロック教職員バドミントン連盟の活動

四国ブロック代表理事 樽島博幸（愛媛県）

四国ブロック愛媛県教職員連盟では、次年度に本県（松山市）開催3度目となる第61回全国教職員バドミントン大会の準備に取りかかり始めたところです。この大会運営も含めて、「とりあえず1期、四国ブロックのお世話をせよ」という前任の逸見寛二先生の配慮と受け止め、今年度より四国ブロック代表理事を担当させていただくこととなりました。微力ながら運営に協力できればと考えております。皆様のご協力を何卒よろしくお願いいたします。

ところで、四国ブロック教職員バドミントン連盟の活動については、ブロックとしてやっと船出の準備ができつつあるというのが現状です。夏期休業中の全国大会には、毎年、四国各県から多数参加し、下記のような輝かしい成績も残せています。

全日本教職員バドミントン大会結果（第51回2012年～第58回2019年）

種目	優勝	準優勝	3位
各種男子団体	高知①	高知①	高知④
各種女子団体	香川②	香川③	香川② 高知①
各種男子個人	高知③ 香川① 愛媛①	愛媛⑧ 高知③	愛媛⑥ 高知⑤
各種女子個人	高知① 愛媛①	香川⑦ 愛媛①	香川⑦ 愛媛④ 高知①

しかし、当連盟としては、まだ円滑な運営がなされていません。現在、四国高体連バドミントン専門部のような協力体制を確立されている組織作りを目指し進めている現状です。この組織化の起案となったのが、3年前から始まった全国教職員連盟からのブロック運営補助金（5万円）の給付です。この使用方法として検討し、四国ブロック教職員の交流・親睦・技能向上を目的とした「四国ブロック教職員バドミントン大会」の開催・運営に充当することとしました。この大会は、

第1回（愛媛県）実施、第2回（香川県）実施、第3回（徳島県）新型コロナ対策により中止、第4回（高知県）実施予定と進めています。日程は、毎年、四国高等学校選抜バドミントン大会終了後に、同会場をお借りして四県対抗団体戦のみを実施しています。この事業を通して、当連盟がますます円滑に運営がなされる連盟になればよいと考えています。

最後に、四国ブロックの組織や各種事業・大会の活動等、連盟の発展に努めていけるよう、皆様方のご協力をよろしくお願いいたします。また、当連盟のため、8期16年という長きに渡りご尽力いただいた逸見寛二先生への感謝とますますのご活躍をお祈りしております。

九州ブロック

九州地区（大分県）の現況

九州ブロック代表理事 谷上和年（大分県）

近年、教職員の多忙化により、九州での教職員大会は開催できていない状況です。

大分県では、年1回の教職員大会を毎年10月に計画し、1日間で実施しています。大会内容は団体戦（ダブルス3組）、個人戦（男女ダブルス、シングルス、混合）です。場所は日田市の体育館を利用しております。

令和2年度は新型コロナウイルス感染症対策として、残念ながら中止をせざるを得ませんでした。令和3年度も同時期に計画をし、実施に向けて準備を進めております。

しかし、6月現在、九州でも感染者が多く出ておりますので、状況を見ながら判断せざるを得ません。

教職員連盟の活動に特化しているわけではありませんが、大分県教職員バドミントン連盟会長、また大分県バドミントン協会理事長、コーチ4指導者として普及指導活動の一環で、日本スポーツ協会公認指導者（コーチ1）の養成講習を令和元年度、2年度と実施しました。特に教職員対象ではありませんが、ジュニア（小学生、中学生、高校生）指導者が多く参加され、教員も半数以上参加し、少しでも一貫した指導が行えるように取り組んでいます。また、更新のための義務研修も計画的（2年毎）に開催し、令和2年度では40名の参加者がありました。講習参加者は県内に留まらず、県外各県（長崎県、佐賀県、福岡県、宮崎県、熊本県、山口県）から参加していただきました。

令和2年実施の際は会場確保、会場の変更、コロナ対策に神経を使いながらの運営で何とか実施できた次第です。

今後の活動として、大会の充実、会員の確保、ひいては九州教職員大会の復活に向け努力したいと考えております。

早く、新型コロナウイルス感染症が収束し、安心・安全な生活を送ることのできる環境となり、教職員の皆様、子どもたちが明るく活動できることを切に祈っています。